青年期における性格認知の偏りと性格の悩み(1)

性格評価の否定的偏りについて

田中洋子

(横浜国立大学教育人間科学部 非常勤講師)

キーワード: 青年期、悩み、性格認知

Bias in self-cognition of personality and distress in adolescence (1)

Yoko TANAKA

(Faculty of Education and Human Sciences, Yokohama National Univ.)

Key words: adolescence, distress, self-cognition of personality

目的

自己概念の分化と統合の時期である青年期には、自分の性格に対する認知も分化と統合を迎えるといえる。ただし、Harter & Monsour(1992)は、この時期特有の自分への熱中を指摘しており、そのような青年の性格認知は、自己中心的な偏ったものとなりやすいともいえる。そして、そのような偏りは、性格の悩みの発生や、悩みの体験にも影響を及ぼすと考えられる。性格認知に関しては、坂本(1994)が抑うつ者の性格特性の自己評価におけるネガティビティ・バイアスについて検討を行い、抑うつ者が自己の性格特性について否定的に偏った認知をすることを示している。このような否定的偏りは、抑うつ者だけでなく、自己の性格特性に対する評価の結果として生じる性格の悩みとも関連があると考えられる。したがって、本研究では、性格特性の自己評価の否定的偏りを、「性格評価における否定的偏り」とし、性格の悩みの量や深さとの関連について検討を行うことを目的とする。

方法

首都圏の中学2年生304名、高校2年生276名、大学生326名に質問紙調査を行った。調査内容は、性格の悩みの量(多肢選択法)と、悩みに対するとらわれの程度(5件法)を尋ねる質問と、性格評価の偏りを測定する尺度であった。性格評価の偏りを測定する尺度は、桑原(1986)における特性語リストを参考に作成した。桑原(1986)の特性語リストは、肯定表現の特性語リストに、意味が類似している否定表現を対にして作られたものである(例:「社交的」—「八方美人」)。本研究では、桑原(1986)の特性語リストのうち、現代青年に馴染みがあると考えられる特性語を17対34語抽出した。また、すべての特性語を、特性5因子論(Big Five)における因子(外向性・調和性・神経症傾向・開放性・誠実性)に対応させ、それぞれの特性語について、どの程度自分に当てはまるかを5件法で評定をもとめた。

結果と考察

性格評価の偏りを測定する尺度の17対について、否定表現から肯定表現の評定値を減じ、数値の大きさが、否定的偏りの大きさを示すよう調整し、性格の悩みがある者(中学235名、高校218名、大学280名)について分析を行った。

性格評価の否定的偏りと悩みの量 各因子の否定的偏りの程度と、年齢及び悩みの量の関連について検討するため、2要因分散分析を行った(図1)。年齢の主効果は全因子でみられ、「外向性」は高校生、「調和性」は中学生、「神経症傾向」は大学生において否定的偏りが大きく、「開放性」、「誠実性」は大学生において否定的偏りが小さかった。ただし、中学生と高校生の間で差がなく、大学生において差がみられることが多かった。大学生であるということが、性格特性に対する評価に影響を及ぼしていると考えられる。悩みの量の主効果は、「外向性」、「調和性」、「誠実性」でみられ、いずれも悩みの

の量が多いほど、否定的偏りが大きかった。多くの性格特性について悩んでいることと、否定的偏りの大きさに関連があるといえる。交互作用は「誠実性」でみられ、中学生、高校生の悩みの量が多い者において、否定的偏りが大きかった。

性格評価の否定的偏りと悩みへのとらわれの程度 各因子の否定的偏りと悩みへのとらわれの程度を検討するため、相関係数を算出した結果、中学生の「外向性」で弱い相関($r=.21^{***}$, $df=233$)がみられ、その他は無相関であった。悩みの量は性格評価の否定的偏りと関連が多くみられたのに対して、悩みの深さである悩みへのとらわれは、性格評価と関連がほとんどないといえる。今後、実際の性格の悩みの内容とそれに類似する性格特性についての評価の偏りの程度の検討も必要である。

図 1. 各因子における性格評価の否定的偏りと悩みの量

引用文献

- Harter, S. and Monsour, A. 1992 Developmental analysis of conflict caused by opposing attributes in the adolescent self-portrait. *Developmental Psychology*, 28, 251-260.
- 桑原知子 1986 人格の二面性測定を試み—NEGATIVE 語を加えて— *教育心理学研究*, 34, 31-38.
- 坂本真士 1994 抑鬱者の性格特性の自己評価におけるネガティビティ・バイアス *心理学研究*, 65, 156-161.